

大体日本の英語教育はなっていない。理由は日常会話からかけ離れてる本当にどうでもいい英語ばかり教えてる英語なんか日常で使う英語を知ってからどんどん進歩していくのにその日常会話そっちのけで変な単語ばかり教えてる例えば「influence」＝人への影響・作用という意味こんなもん普通に考えて日常会話では使わない専門化が使う言葉だ!普通の人間はその単語は使う機会はずっと少ない本当に使う事なんか無い。俺ですら使った事が無い単語を教えてなんか意味があるのか?それに、日本の英語授業は音読・書くの連続それじゃいくら読めてもかけてもイザ外人の前で話せといわれても話せるわけが無い参加しても、こんな単語つかうかなあ~?って言うのばかり俺が外国で使った事も無い単語ばかり教えてるそれはそれで、まだまだ勉強不足だしいんだけど、周りの奴にこっちで知った日常会話言っても通じない…という事は、日常そっちのけで難しい単語教えてるみたい…確かにそのとおり日本は日常会話ではなく勝手に委員会・もんかしようが決めた基準の英語教科書に出てきた単語しか教えないからその時点でもうダメはきりきり言って、英語じゃない。それに、日本の英語で教わった皆は半数以上がちゃんと文を読めない。発表ですら棒読み自分の名前も棒読みそんな、奴ばかりの日本の教育はどうかしてる絶対おかしい先生ですらその場で皆に音読させても後は皆タダ読めばいいと勝手に思って日本語見たく棒読み…それじゃ意味無い。全くお持って意味無いそんな、ロクに発音も教えられないかつ変な英語ばかり教えてる日本はまず英語なんかやらないで欲しい。それを、間違った英語だとも知らずに英語だと思って教わってる皆がかわいそう。英語教えるならはっきりとした英語を教えろ。そんな英語じゃ外国で通用しない。と思っただけ



☆飯島拓也

の人は外国なんか行かないし、だからこんな英語を教えるんだよ。

外国に行く人がいないから英語なんてどうでもいいや~って考え方で教育してるって俺は思う。んだったらどうでもイザなら英語なんか教えるな皆には本当の英語なんか分からずに教わってるんだから、いい加減な英語なら今すぐにでも止めろ。

2つ目にその英語教育に関連する事で一つ名が挙がってくるのは「教育委員会」。こいつらなに???だいたいの金ももらってるだけじゃないの?????ろくな教育も出来ない、ろくな決まり一つも作れない。俺が思いつく中で教育委員会はなんか素晴らしい事でもやりましたか??俺はやってるようには見えないメチャクチャな教育やって高いノルマ立てて、それを達成できずに頃がる学生を楽しそうに見ているようにしか思えない。それに、タダ偉そうにして何かほざいてるけどぶざけるな教育も出来ないかつお決まりに隠蔽。虐めで自殺してるのがあるって言うのに、タダ外面だけで何も出来ないあーだ、こーだ言っても全く改善されてない。むしろそれはやっていませんなどの隠蔽に走る。

何かあれば逃げる自分達は悪く言われたくないからそれに関連した例「生徒・教師」を叩く自分達は全く責任のせの字も持たないそんな奴らを教育委員会なんて思っているのだろうか?俺は残念ながらこいつらのことを教育委員会だとは思っていない。俺は金だけもらってる役立たずと思ってる。

全く、全面的に見て英語コレだけは考えるべきである。こんな英語は教えないほうがいいレベルが低すぎる。なぜならちょっと外国に行っただけで英語の外人先生の言ったことを通訳できたからである。そんな簡単な事を、先生が日本語に訳して皆に説明してる程度それじゃあだめだもう少し考えて欲しい以上。



☆酒井 亮

6月の末、週末を利用して、自分は友達2人と共に北島最北端のCape Reinnga(レインガ岬)に行ってきました。なぜ行こうと決めたのか。それは…。ただ何となく。オークランドよりも北に行った事が無かったし。行こうと決めた時点では、この旅に数々の困難が待ち構えていようとは自分たちの誰も想像してなかった…。

まず、計画の段階で悩まされたのは「時間」。なぜなら、ケーブ・レインガまでは車でノンストップで行って約10時間位かかる。休憩する事を考えると、11~12時間。自分たちにはたった2日しか無い。実際、学校の先生など数人に旅のスケジュールを話すと、返ってくる答えは皆、同じ。「たった2日?無茶だよ!!」

さらに、週末に嵐が来るというありがたくない情報まで頂戴してしまった。しかし、自分たちは不安を抱えつつも旅を決行することにした(結局、最後まで「時間」というものに苦しめられる事に…)。

まず最初に決めなければいけない事は、どの町のどの宿に泊まれば良いのか(しかも、なるべく安く)という事。これは、町のインフォメーションセンターの人と相談した結果、ケーブ・レインガに行くのは2日目にして、初日はパイピアという町のバックパッカーズに泊まる事に決まった。

初日、フィティアンガを7:00AMに出発し、3人で運転を交代しながら中間地点のファンガレイに5時間ほどで到着。そこで休憩がてらお土産などを買い、スーパーマーケットで夕食用にピザとチキンを購入。この日はそのままパイピアまで行き、夕食をとって、9時頃にはベッドに入った。なぜ、こんなに早く寝たのかというと実はこの旅にはもう1つの目的地があったのである。それは、90マイルビーチ(実際の距

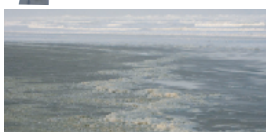
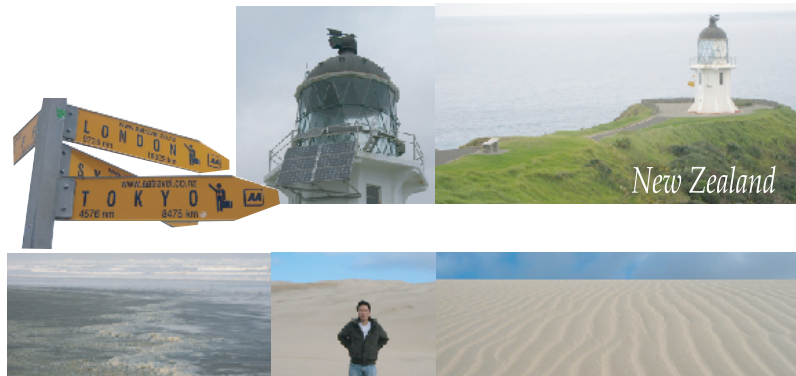
離は64マイル=約100キロ)というとても長く長いビーチで干潮時には車で走破できるらしい。自分たちはその干潮の時刻(バックパッカーの受付の気の良い兄ちゃんによると、その日は7:30頃)を狙って5時頃に出発するため、早い就寝となったのである。

2日目、予定通り5時にビーチに向けて出発した。ビーチの少し手前の森の中を車で走っていると、前方をなんらかの動物が横切った。それを目で追い、目を凝らしてみる。え?ええ~!!ウ、ウマ。まさかアレ、野生の馬。こんな深い森の中に放し飼いなしなはず。そういえば、毛並みもそんなに綺麗じゃなかった気がするし。まさか、生きていううちに野生の馬に遭遇するとは(シマウマならアフリカに行けば見られそうだけど)。

そんな事もありつつ、無事、干潮時刻前にビーチに到着。でも、あんまり潮が引いていないように見える。その場で潮が引くのを少し待たけどあまり変化が見られないので、もう1つ岬寄りの入り口(入り口はいくつかある)に向かう事にした。

次の入り口に到着すると、見事に干潮になっていた。ただ、天気がもうひとつスッキリしなかった(結局、嵐はこなかった)ので、ビーチを走破するのはやめて、岬に向かうことにした。

岬に向かって快走する車。しかし、舗装道路が終わってから30分以上走っても到着する気配は無い。すれ違う車も皆無。本当にこの先に岬があるのだろうか、などと考えた頃、やっと、到着。岬には小さな白い灯台があって、と言うより、灯台しかない。ただ、1つ感慨深かったのは、そこにある看板に「東京8475km」の文字が。そのあと、灯台でひとしきり写真を撮り、そこを後にした。岬から少し戻った所で、気になる看板を発見。それ



には「Sand Dune」と。砂丘?迷った挙句、行ってみることにした。着いてみると、そこには目を疑うような光景が。砂と緑のコントラスト。そう、それは、まるで砂漠にたたずむオアシスのよう。砂のきめの細かさといったらこの上なし。はっきり言って、この旅一番の感動がそこにはあ

った。その後は、特にどこにも寄らずに、フィティアンガに向けて車を走らせた。

合計走行距離 約1,350km

(東京-大阪間 往復とはほぼ同じ)

かくして、北島最北端への1泊2日の弾丸ツアーは幕を閉じたのだった。

## New Zealand 育ちの孫と私

佐久間純子

(エリコMclean校長の母親)

私には7人の孫がいます。その個性もそれぞれで、昔人の私にはそれが面白く楽しいものです。その内の一人のアキオは5歳の時からニュージーランドで育ちました。その彼が大学生になってから大学の長い休みを利用して日本でアルバイトをするために一月半ほど私の家に滞在したことがあります。外見は日本人ですが、彼にとっては英語が母国語、日本語は日本の小学生程度です。それでも頑張り屋のアキオはアルバイト情報誌を買ってきて、辞書を引き引き仕事を探しました。

幸い家から歩いて25分ほどの所にある東芝工場に採用されました。その頃、彼はアメリカの映画俳優のメル・ギブソンのサムライ風ヘアスタイルに憧れていたので、自分も長髪を後ろで束ねて、毎日、颯爽とアルバイトに通い始めました。それから、私が長い間聞いていなかったお弁当づくりが毎朝始まりました。

ある日、突然アキオが「おばあちゃんにいくら払ったらいいかな?」と言うので、私は一日500円もらうことにしました。これもニュージーランド仕込の独立精神というのでしょうか。また、時々彼の会社の帰りにスーパーマーケットに寄り、値下げした鳥のから揚げやカツやきざみキャベツなど買ってきます。「お弁当は毎日同じでいいよ」というのですが、何回かに分けて使うには、きざみキャベツはすぐにいたみます。ある日、私がそれを捨ててしまうと、アキオは「まだ食べられるから捨てちゃダメ」ト言います。NZ育ちのワイルドさなのか食べ物粗末にしないと言うのか困ってしまいます。

暇を見ては新聞を広げ日本語勉強するアキオから時々、質問がきます。「おばあちゃん!長い女って何?」私はわかるように「兄弟の中で一番上の女の子をチョウジョ」というのと説明します。時々私も英語の辞書を使って説明します。日本語のヒアリングは良いのですがボキャブラリーの足りなさで簡単な話になってしまっていますが、真面目で一生懸命働く姿は職場の人々にも好感をもたれているようです。

海外出張などした方達に英語を教えてほしいと頼まれて、仕事の後や昼休みに英会話を教えるはじめました。それは好評だったようで会社をやめる時には、お礼といって腕時計を頂き、彼はうれしそうでした。日本でのアルバイトはNZ育ちのアキオには良い経験となったようです。私にとっても孫との面白い異文化体験となりました。